



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行人 末吉卓也 1部60円年間〒共1100円



二〇〇五年教区教勢まとめ 信者数はわずかながら減少

鹿兒島教区

教勢調査報告

二〇〇六年三月十五日の南日本新聞の朝刊「ひろば」の欄に、元公立中学校の校長先生の投稿が掲載されていた。「少子化対策は子育て視点に」のタイトルで、共感するものがあった。

「行政の少子化対策は、保育所を増やし保育時間を延長するなど働く婦人に重点を置き、母性愛に基づき母が手塩にかけて子育てすることを無視している。母親と引き離された保育で心豊かな日本人が育つだろうか」

か。現在の施策でたとえ子どもが増えても、母の愛に飢えて成長した人が立派な家庭人、社会人になるだろうか」と。多方面からの意見、異見、私見があるかもしれない。

教会も毎年教勢調査を実施しながら、その結果に対して視点を定めることもなく、何の施策も講じられていない現実を反省させられる提言のような気がした。

■信徒数と信者数

総じて、信徒総数に限って言えば、大きな変動はない。とはいっても、五人の減少になっている。総数は九二八五人である。

一方で、聖職者数を加えた信者総数は九五〇八人となり、前年より十七人減となっている。ということからは、聖職者の数が減少したことを意味している。主なものは、教区司祭の減を挙げることができる。教区の

■転入者・転出者

全体として信徒の移動は昨年比で減少している。今回は、転入者の方が転出者を上回り、教区内での動きが多くなっている。

高齢者が多くなってきた教区の現状からすると、年々なくなられる方が増えてくる。今回の調査では、前年を十二人上回っている。洗礼を受けた人は全体で前年より十人の減であった。中でも幼児洗礼が少なくなった。特に一歳未満の受洗者が九人減っている。

■死亡者数

高年齢者が多くなってきた教区の現状からすると、年々なくなられる方が増えてくる。今回の調査では、前年を十二人上回っている。洗礼を受けた人は全体で前年より十人の減であった。中でも幼児洗礼が少なくなった。特に一歳未満の受洗者が九人減っている。

例年、ザビエル教会がダントツで、教区内総数の約半数の挙式を行っている。滞日外国人のミサ 教区内で実施されているのは種子島と和泊そしてザビエル教会。外国人が増えてくる現象は全国的である。今後の継続的な、教区

教区の聖職者と信徒数

司 教	2
教 区 司 祭	16
教 区 助 祭	2
宣 教・修 道 司 祭	20
修 道 士	6
そ の 他 司 祭	1
修 道 女	173
在 俗 会 員	2
教 区 小 神 学 生	1
男 子 一 般 信 徒	3454
女 子 一 般 信 徒	5831

内の小学生は四〇九人、中学生は八十九人、高校生は五十三人となっている。

主日のミサ参加者は全体の二七・五％の割合である。前年度は二七・六％であった。

司祭の異動

- ▼橋口啓悟神父(吉野教会主任司祭)は大熊教会主任司祭
- ▼大松正弘神父(谷山教会協力司祭)は出水教会主任司祭
- ▼W・フリチエル神父(出水教会主任司祭)は谷山教会協力司祭
- ▼H・ハヌス神父(長崎教会・愛宕教会)は母間教会協力司祭
- ▼石田 望神父(母間教会助任)は愛宕教会

ありがとう鹿兒島の皆さん

司祭叙階を前にして 教区助祭 パウロ・ファン・ミン・アン

私は、神さまの無償の愛と祝福、絶え間ない聖母の執り成しと皆様のお祈り、及び教会裁治権者と関係者の皆様の父的愛により、来る四月二十二日、マニラ司教座教会で司祭職に叙階されることになりました。

共にいるため、また皆様への奉仕のために、心からの愛と献身をもって叙階に臨む所存です。神が私の意向と皆様の中での働きを祝福

この時にあたり、私は、司祭を目指して養成と召命のために寄せられた皆様からの不断のお祈りと父的愛、そして寛大なご支援に対して、鹿兒島教区の郡山司教様、糸水司教様をはじめ、小川総代理神父様、全聖職者、神学生、男女修道者並びにすべての信徒の皆様

平賀司教は一九四五年、岩手県花巻市生まれ。七四年に司祭に叙階され、教皇庁立ウルバノ大学で教会法学科修士課程を修了。帰国後仙台教区事務局長を務めたほか同教区各地の小教区を担当した。また、カトリック新聞社編集長、教区総代理の経験もあり、溝辺司教の転出後は教区管理者だった。

会場となった仙台白百合学園講堂には千五百人余

三月十八日、鹿兒島教区のベトナム人神学生、パウロ・ファン・ミン・アンさんが、フィリピン

鳥教会主任)が参列する。



たくさんのお祈りと識別、そして、聖霊の勧めに心を開くことで、私は、神のみ旨と教会裁治権者及

共にいるため、また皆様への奉仕のために、心からの愛と献身をもって叙階に臨む所存です。神が私の意向と皆様の中での働きを祝福

この時にあたり、私は、司祭を目指して養成と召命のために寄せられた皆様からの不断のお祈りと父的愛、そして寛大なご支援に対して、鹿兒島教区の郡山司教様、糸水司教様をはじめ、小川総代理神父様、全聖職者、神学生、男女修道者並びにすべての信徒の皆様

平賀司教は一九四五年、岩手県花巻市生まれ。七四年に司祭に叙階され、教皇庁立ウルバノ大学で教会法学科修士課程を修了。帰国後仙台教区事務局長を務めたほか同教区各地の小教区を担当した。また、カトリック新聞社編集長、教区総代理の経験もあり、溝辺司教の転出後は教区管理者だった。

会場となった仙台白百合学園講堂には千五百人余

三月十八日、鹿兒島教区のベトナム人神学生、パウロ・ファン・ミン・アンさんが、フィリピン

鳥教会主任)が参列する。

親愛なる友人である若者の皆さん

神は、歴史の中で自分を現します。神は人類に語りかけます。そして、神の語りかけには創造的な力があります。通常「ことば」と訳されているヘブライ語の「ダーバル」という概念は、実際には「ことば」と「わざ」の両方の意味をもっています。神は行うことを語り、語ることを行います。旧約聖書は、イスラエルの子らにメシアが到来し、「新しい」契約が結ばれることを告げます。肉となつたみことばによつて、神は自分の約束を果たします。「人となられた神の御子キリストは父の唯一の、完全な、決定的なみことばです。キリストにおいて神はすべてを語られました。キリスト以後、そのほかのことばはありません」(「カトリック教会のカテキズム」65)。

使徒たちは、救いのみことばを受けると、この救いのみことばを、教会という宝石箱に大事に保管された高価な宝石のように、後継者に伝えました。教会がなければ、この真珠をなくしたり、こわしたりする恐れがあります。親愛なる友人である若者の皆さん。神のこことばを愛してください。教会を愛してください。その価値のある宝に近づくことができ、また、どのようにしてこの富に感謝したらよいかを教えられるでしょう。教会を愛し、教会に従

つてください。教会は、その創立者であるかたから、人々に真の幸福に至る道を示す使命を与えられているからです。わたしたちが住むこの世界の中で、真の意味での幸福を認め、見いだすことは容易なことではありません。人々は自分が「自由」であると考えているかもしれませんが、けれど人々は協道にそれ、倒錯した思想の誤謬や幻想に囲まれて、道に迷います。人類が手探りでその中を歩んでいる暗闇も、光で照らされなければなりません。

親愛なる友人である若者の皆さん。しばしば神のこことばを黙想してください。聖霊に師として導いてもらってください。そうすれば、皆さんは、神の考え方と人類の考え方は同じではないことがわかるでしょう。また、神のありのままの姿を觀想し、神の目をもつて歴史の出来事を読み取ることができるよう、導かれることでしょうか。そして、真理から生まれる喜びを十分に味わうことでしょうか。

神のこことばは、霊的な戦いを戦うためになくてはならない「武器」だと考えらるようという命令(ヘブライ4・12参照)を、真剣に受け止めなければなりません。わたしたちが神のこことばを「聞き」、神のこことばに「従う」なら、この「武器」は力を発揮し、成果を上げることでしょう。(ソロモンが神に願った)「聞き分ける心」(列王記3・9)を身につけるための秘訣は、「聴く」ことができるように自分の心を訓練することです。そのために、神のこことばを忍耐強く黙想しなければなりません。また、神のこことばを深く知ろうとする粘り強い努力を通じて、神のこことばのうちに

(レクチオ・デイヴィナ)があります。いくつかの段階を通して行われるこの「霊的読書」は、真の意味で「霊的旅路」そのものではないことができません。まず「読書」(レクチオ)によって、聖書の箇所を読み、またあらためて読み返し、大事な部分を理解します。その後、「黙想」(メディタチオ)に進みます。「黙想」は、心の中で考察することです。このとき魂は神に向かい、神のこことばが今日わたしたちに語りかけようとしていることを理解しようと努めます。次に「祈り」(オラチオ)が行われます。この

世代の使徒は、キリストのこことばにしつかりと根ざし、現代のさまざまな問題に応えることができ、遠くまで、また広く福音をのべ伝える準備ができていなければなりません。主が皆さんに望んでいるのは、このことです。イエスと呼ばれたなら、とくに、イエスが奉獻生活や司祭職を通して自分に従うように招いた場合には、寛大な心でイエスにこたえることを恐れることはありませぬ。恐れずに、イエスに信頼してください。そうすれば、皆さんが期待を裏切られることは決してありません。

親愛なる友人である若者の皆さん。今この時から、神のこことばにたえず耳を傾ける心をもつて、「力とあかしの霊」である聖霊に祈り求めてください。恐れることなく、地の果てにまで福音を告げ知らせることができるようにと。マリアが皆さんの母となつて、皆さんを導いてくださいますように。マリアの助けによつて、皆さんが、いつも神のこことばに心をとめながら、堅固な信仰と、変わることはない希望と、忍耐強い愛を持ち続けることができすように。わたしは、祈りのうちに皆さんとともにいます。そして心から、皆さんの一人ひとりに祝福を与えます。

二〇〇六年二月二十二日
聖ペトロの使徒座の祝日にバチカンにて
教皇ベネディクト16世
(カトリック中央協議会事務局訳)

「あなたのみことばは、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯(ともしび)」

(詩編119・105)

いつもとどまらなければならぬ。親愛なる友人である若者の皆さん。わたしは皆さんが聖書に親しむように、強く勧めます。聖書をいつも手に携えてください。それは、聖書が皆さんにとって、行くべき道を指し示す羅針盤となるためです。聖書を読むことにより、皆さんはキリストを知るようになります。「聖書を知らないこと」です(聖ヒエロニモ)。神のこことばを研究し、味わうための古くからの方法に、「霊的読書」

ときわたしたちは、いつもでも神と直接に語り合います。最後に到達するのが「観想」(コンテンンプラチオ)です。「観想」によつて、わたしたちの心は、キリストがともいてくださるのを感じ続けることができますようになりす。

皆さんの生活をキリストの上に築いてください。喜んでみことばを受け入れ、その教えを実行してください。第三千年期の若者の皆さん。新しい世代の使徒の登場が、緊急に必要とされています。この新しい

二〇〇六年四月九日
教皇メッセージ(要約)

初回の一九八七年はブエノスアイレスで開かれ、以降、サンティアゴ・デ・コンポステラ(一九八九年)、チェストコバ(一九九一年)、デンバー(一九九三年)、マニラ(一九九五年)、パリ(一九九七年)、ローマ(二〇〇〇年)、トロント(二〇〇二年)、ケルン(二〇〇五年)で開催されました。今回は、二〇〇八年にオーストラリアのシドニーで開催される予定です。

2日(日) 四旬節第五主日
▼中野裕明神父叙階記念日(一九七八年)
9日(日) 受難の主日(枝の主日) 世界青年の日
世界青年の日
教皇ヨハネ・パウロ二世は一九八五年三月三十一日(受難の主日)、国連制定の国際青年年にあたって全世界の青年たちにメッセー지를発表し、その翌年から「世界青年の日」を毎年、受難の主日(枝の主日)に祝うよう定めました。それとともに一九八七年以来、「国際青年フォーラム」と「世界青年の日」記念式典が教皇臨席のもとに開催され、全世界から大勢の若者が集まるようになりました。

- 11日(火) フリチエル神父叙階記念日(一九五五年)
- 13日(木) 聖木曜日(主の晩さん)
- 14日(金) 聖金曜日(主の受難) 大斎・小斎
- 15日(土) 聖土曜日
- 16日(日) 復活の主日
- 17日(月) マリア山荘祝別記念日(一九九三年)
- 18日(火) 松森孝郎神父叙階記念日(一九七一年)
- 22日(土) 加世田教会献堂記念日(一九五六年)
- ▼アン助祭司祭叙階式・マニラ大司教区カテドラル
- 23日(日) 復活節第二主日(神のいつくしみの主日)
- 25日(火) 聖マルコ福音記者
- ▼ヴィゴロ神父霊名
- 28日(金) アッシュヤー神父叙階記念日(一九六四年)
- ▼ハンマ神父叙階記念日(一九六三年)
- 29日(土) 橋口啓悟神父叙階記念日(一九九六年)
- 30日(日) 復活節第三主日

第二回ザビエル教会コンサート オルガンの音色で聴衆を魅了

第二回「ザビエル教会コンサート」が三月十一日(土)午後六時半から鹿兒島カテドラルで開かれ、大勢の市民が同聖堂に足を運び、教会の雰囲気と神を讃える道具(パイプオルガン)の音色を十分に満喫した。

鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂にパイプオルガン(スウェーデン製)が設置され五年。これまでに同聖堂では霧島国際音楽



笑顔で挨拶する高坂さん

祭など多くの団体が主催するコンサートが開催され、市民が教会に足を運びきつかけとなってきた。

ザビエル教会が独自に主催するパイプオルガンによる教会コンサートは、二

〇〇二年六月に酒井多賀志(東京純心女子大学教授・吉祥寺教会オルガニスト)さんを招いたものが初めて、今回が二回目。この日のコンサートにはドイツ国立ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ・フランクフルト大学で音楽学・宗教学を専攻している高坂 暢さんが招かれた。高坂さんとザビエル教会との出会いは二

第一回本土地区 宣教奉仕者養成講座終わる

昨年九月、鹿兒島司教区五十周年を機に、教区は新しい方針として終身助祭と信徒奉仕者の養成に取り組みことを決めた。

五十周年記念ミサで先に二人の助祭が叙階されたが、宣教奉仕者選任式を今年の三月に行う予定で養成講座が開講されることになっていた。

昨年十月、教区信仰養成委員会主催(永山幸弘師

担当で始められた講座を 小教区から選ばれた二十六人(始良2、加世田3、鹿屋1、鴨池3、ザビエル12、玉里2、紫原2、本部扱い1)が受講。これに数人の方々も自由に参加し、先月までに三回の講座を終え、各小教区での具体的な養成に移った。

途中新司教叙階式が行われたため一月の講座が延期され、三月の選任式は

〇〇四年。昨年には同教会でオルガン講習会や「黄昏コンサート」を開くなどし、

「短信」

▼ザビエルとヤジロウの学習会

三月十七日(金)ザビエル教会要理室で「ザビエルとヤジロウ」についての学習会が開かれた。

これはザビエル市民講座として開かれたもので、一人でも多くの人が鹿兒島を訪れた観光客にザビエルとヤジロウのことを伝えて欲しいと「ザビエル上陸顕彰会」が開いたもの。集まったコンベンションビューロー関係者や信徒たち十一人は門田明顕彰会会長(玉里)から熱心に学習した。▼マラッカからお客様

四月二十三日から二十五日まで、マラッカにあるザビエル教会の主任司祭と信徒会長らが鹿兒島を訪問する。これは県マレーシア友好協会マラッカクラブの呼びかけで実現するもの。

同クラブでは現在ザビエル公園のザビエルとヤジロウ像を贈呈するために募

きなくなったが、今後の日程については郡山新司教に委ねられている。参加者は宣教奉仕者の任務を理解して小教区の活性化に役立つと気概と熱意をもって学んだ。

信者たちとの絆の強い奏者である。そんな高坂さんは「パイプオルガンの夕べ」と題したこの日のコンサートで、バッハの受難をテーマにした曲などを演奏。その技術とオルガンの持つ音色でキリストの受難を余すことなく伝えた。

金活動中。(問合せ)七枝敏洋さん 〇九〇一三七三九一九四〇五
尚、四月二十三日夕方には鹿兒島カテドラルで歓迎レセプションが開かれる予定。

鹿兒島教区教勢

2005年12月31日現在

小教区	信徒数		居所不明	洗礼		転入			転出			死亡	求道者
	総数	実数		子供	大人	教区内	教区外	その他	教区内	教区外	その他		
ザビエル	910	864	46	6	11	12	20	3	4	19	1	13	11
玉里	272	272	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2
吉野	187	177	10	0	1	0	0	0	6	1	0	1	0
鴨池	570	529	41	4	13	13	1	1	6	5	0	5	17
谷山	800	762	38	4	2	5	6	1	14	5	0	3	9
指宿	85	85	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
紫原	166	165	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0	1
始良	251	242	9	2	2	0	1	1	7	1	0	5	2
溝辺	10	10	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0
種子島	93	93	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0
加世田	145	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3489	3344	145	18	32	36	29	6	42	31	1	29	42
国分	153	149	4	0	0	5	5	0	1	0	0	1	3
垂水	26	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿屋	255	234	21	1	1	2	4	0	0	3	0	4	5
志布志	81	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	515	490	25	1	1	7	9	0	1	3	0	5	8
出水	189	186	3	0	1	1	2	0	0	1	0	2	3
阿久根	57	57	0	0	7	0	2	0	0	1	0	10	13
大口	160	160	0	0	2	1	0	0	1	1	0	4	1
川内	292	292	0	0	1	1	0	0	2	1	0	4	3
入来	90	90	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	788	785	3	0	12	3	5	0	3	4	0	20	20
聖心	881	869	12	3	6	8	0	0	5	3	0	10	4
古田町	778	744	34	3	5	1	0	0	1	1	0	20	3
大熊	607	602	5	8	3	9	0	0	3	1	0	15	3
小宿	344	344	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1
古仁屋	196	190	6	1	5	1	0	0	1	1	0	6	4
瀬留	415	415	0	0	1	0	0	0	5	3	0	6	2
大笠利	646	600	46	4	5	0	2	0	0	1	0	6	0
計	3867	3764	103	19	25	20	2	0	15	10	0	67	17
母間	483	494	0	4	7	4	1	0	10	5	0	12	4
和泊	143	124	11	1	3	2	8	1	0	0	0	3	0
計	626	618	11	5	10	6	9	1	10	5	0	15	4
合計	9285	8998	287	43	80	72	54	7	71	53	1	136	91
				123		130			125				

<KABAYAN SEKSIYON>
"Pagpahayag ng Pananampalataya"
Unang Kabanata: Ang tungkulin ng tao para sa Diyos.
 Sa buwan ng Marso ang paghinlay-nilayan natin ay ang tungkol sa "Pagnais para sa Diyos". Habang nabubuhay tayo sa mundo, marami tayong ninanais sa buhay. Gusto nating maging maginhawa ang buhay, kaya nagsisikap tayong magtrabaho. Hindi masama ang magnais ng bagay na ito, kailangan natin ito para sa araw-araw ng ating pamumuhay. Subalit huwag tayong maging alipin ng pagnais na ito. Kailangan din natin na naisin ang para sa Diyos. Ang pagnais para sa Diyos ay nakasulat na sa puso ng tao, dahil ang tao ay nilikha ng Diyos at para sa Diyos. At ang Diyos ay hindi tumitigil na mapalapit ang tao sa kanya. Dahil sa Diyos lang makukuha ng tao ang katotohanan at kaligayahan na hindi siya titigil na hanapin ito. Dahil ang karangalan ng tao ay nakalaan na, higit sa lahat siya ay tinatawag na makiisa sa Diyos. Ang paanyaya na makipag-usap sa Diyos ay itinalaga na sa tao mula ng siya ay nilikha. At ang pananatili ng buhay ng tao ay dahil nilikha siya ng Diyos sa pamamagitan ng pag-ibig at sa pag-ibig na ito ang tao ay mananatiling mabubuhay. Ang tao ay hindi ganap na mabubuhay sa katotohanan hanggang hindi niya kikilalanin ang pag-ibig na ipinagkatiwala sa kanya ng kanyang may Likha. Sa maraming pamamaraan, at sa buong kasaysayan hanggang sa ngayon, ang tao ay binigyan ng pagpahayag ng kanyang pagnais para sa Diyos sa kanilang banal na paniniwala at kilos: sa pagdarasal, paghandog, ritwals, paghinlay-nilay at iba. Ang mga porma ng banal na pagpahayag, kahit na may pagdudada dinadala nila ito at pandaigdigang na tinatawag na banal na nilikha ang tao. Subalit ang "pakikiisa ng tao sa Diyos" ay pwedeng makalimutan, hindi bigyan ng pansin o tanggihan ng tao. Ang pag-uugaling ito ay may ibat-ibang dahilan: paghimagsik kontra sa mundo ng kasamaan, kawalan ng kinalaman sa relihiyon, pagpahalaga ng yaman ng mundo, iskandalo ng masamang halimbawa sa parte ng na nampalataya, hadlang na pag-iisip hinggil sa relihiyon, at ang panghuli, itong sa loobin ng makasalanang tao ay nagbibigay sa kanya ng takot at pagtago sa Diyos at tumatapas sa kanyang tawag.

Nasulat sa salmo 105:3 "Matuwa ang mga pusong humahanap sa Panginoon". Kahit na makalimutan o tanggihan ang Diyos, Siya ay hindi tumitigil na tawagin ang bawat tao na hanapin siya, para makita ang buhay at kaligayahan. Subalit ang paghahanap para sa Diyos kailangan na ang tao ay may matatag na sa loobin at talino, "busilak na puso" at ang pagsaksi ng iba na turuan siyang hanapin ang Diyos. Hinahanap mo ba ang Diyos Kababayan?

声

教会のザビエル像 始良教会信徒

始良教会の庭に聖フランシスコ・ザビエルの像が置かれています。旧ザビエル教会聖堂を解体した際に「始良教会に一時保管ということ」で、聖堂の一部だっ

左手を天に伸ばしているザビエルが聖堂の石材の周りで遊んでいる始良教会と隣の子供達を見守っています。

「どのように活用するか早く決まればいいのになあ」と思う反面、子供達の憩いの場を作り出している様子に、「このままでもいいのかな、始良教会を見守ってください」とも願っています。

良書紹介

「ベネディクト16世
黙想と祈りによる
十字架の道行」

貝原敬子訳
女子パウロ会
八百円(税別)
前教皇ヨハネ・パウロ二世が帰天される前の昨年三月二十五日、現教皇のラツインガー枢機卿がロー



マのコロセウムで多くの信者たちとともに行った黙想と祈りによる十字架の道行。
「枢機卿は、神と人間を

見失った現代の多くの人の傲りと弱さを深く洞察し、神に向かつて切なる祈りをささげ、わたしたちも復活された救い主キリストのいのちにあずかることができるように招いてくださいました」(訳者「あとがき」から)。
十字架の道行の成り立ちについての教皇儀典室の解説つき。

教皇様への子供たちの質問⑤

アンナ「親愛なる教皇様。イエスは『わたしはいのちのパンである』といわれました。これはどういう意味ですか」
教皇「まず、パンとは何でしょうか。現代のわたしたちは、おいしい料理や

さまざまな種類の食べ物を食べています。けれども、もっと素朴な食事をしているところでは、パンは、食べ物の基本です。イエスがご自分を「いのちのパン」といわれたとき、「パン」は、すべての食べ物、一言で表しているといつてよいでしょう。また、わたしたちは生きていくために、からだのために食事が必要です。同じように、心のためにも、つまり、魂や、何かをやりとげる意志のためにも、食事をとる必要があります。わたしたち人間には、からだだけでなく、心

ザビエルさまの散歩道
四月七日(金)は、ザビエル様がお生まれになって、ちょうど五百回目の誕生日に当たります。スペイン北部のバスク地方にあるナバラ王国に五人兄弟の末っ子として、ザビエル様は生まれました。
交通の要所だったナバラ国は、フランスとスペインの争いの渦中であり、兄二人も、騎士として国のために働いていました。末っ子のザビエル様は留守を預かる母の影響を受けて、学問の道へと進んでいきました。そ

もありました。わたしたちは、知能と意志を使って、ものを考える存在です。心と魂も食事をしなければなりません。心と魂が成長して、ほんとうの意味で満たされるためには、だからイエスは「わたしはいのちのパンである」。それはこういう意味です。イエスご自身が、わたしたちが自分の魂と、

す。今まで以上に、ザビエル様に親しめるような新しい上陸記念祭になることをご期待ください。鹿兒島地区も奄美大島地区も一体となってザビエル様を祝える機会になりました。
今年は特に、ザビエル様を思い起こせる機会に恵まれる年になると思います。
▼ザビエル上陸記念祭実行委員会では、このコラムを通して、皆さまのザビエル様への思いや様々な声、ご意見をお待ちしています。今後ともご協力をお願い致します。ご連絡は教区本部・久保まで

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

山鴉わが庭となす夏館 名瀬 松畑義弘
鹿兒島 春山マリ子
どうしたらいいか分からぬ春の酔 (評) 上の句の口語も「春の酔」もよい。
純心学園 川上和
雪吊りの池にたたずむ石灯笼 鹿兒島 本城 愛
ゆきやなぎ散らす一夜の春一番 純心学園 山頭信子
ありがとう叙階の司教ありがとう (評) 天意をしめす結句の「ありがとう」がよい。
鹿兒島 徳永ノブ子
受験子を今は見守るばかりなり

出水

短歌 (思川短歌会作品)

入学式皆喜びの子らの顔 鹿兒島 龍門司真人
なごり雪舞えば悲しむ里の屋根 鹿兒島 前田儀子
きさらぎは夫と妹との別れすみれ咲く季ゆるやかにめぐれ 出水 遠竹睦郎
重きこところにありて空を見る空の青さをじっと見つめる 鹿兒島 春山マリ子
自信無くした身の上を憂ひつつ晴やかに欠けるも丈夫なり 阿久根 中津濱フサエ
さびしさを癒してくれるシクラメン 優しく匂ふうす紅の色 名瀬 林 明子
いつしよに手をつないでねすなはまを波音きいて歩いてね

霧島の湯煙りたちて舞う雪に別れを惜しむ弥生の友と 鹿兒島 前田儀子
波長が合う口語の表現がよい。 純心学園 川上和

有難く「聖母の騎士」を読み終えて黄昏に喫む煙草が美味い (評) 「聖母の騎士」の安堵感が結句に表わされてよい。
鹿兒島 田平新太郎
黒髪の健やかにして逝きし汝十八番の唄はりんご追分

お分けします! 教区報縮刷版

鹿兒島カトリック教区報は、一九八二年創刊以来、教区の歴史を記録してきました。教区では、司教区五十周年を記念し、この教区報を資料として活用していただくこと、創刊号から一〇四年十二月号までを縮刷版(Ａ４サイズ)にまとめ、入手希望の教区の方にお分けさせていただきます。ご希望の方は教区本部までご連絡ください。 鹿兒島カトリック教区報編集部

わたしたちの内なる心が必要としている、かてを与えてください。なぜなら、心も食事をとらなければならぬからです。たとえどんなにそれが重要であつても、科学技術が作り出すものだけでは足りません。わたしたちはほんとうに、神がわたしたちの友となられ助けてくださることによって、わたしたちは正しい決断をすることが出来ます。わたしたちは人間として大人になる必要があります。いいかえると、イエスは、わたしたちが大人になるため、わたしたちがよく生きることが出来るために、わたしたちにかてを与えてくださるのです。」
(カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画 訳を一部省略)



カトリック新聞

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com